とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	１０２５４１４
園名	駿河台大学第一幼稚園

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

音

＜テーマの設定理由＞

子供たちは好きな遊びの中で、いろいろな音を当てる遊びを楽しんでいる。その際、雨の音や時計の音などに興味を広げていく様子が見られていた。その姿から、1つの音をよく聞き、細かい違いに気づいたり、音の面白さを感じたりしてほしい。

２．活動スケジュール

・楽器など身近な様々な音に触れる。(6月)
・自分で作り出すことのできる音（手作り楽器など）の音を楽しむ。(9月)
・自然の音を探して触れる。(1月)
・音が出るものに触れてみる。(1月)
・友達と協力しながら音に触れる。(1月～2月)
・耳では聞こえない音を予想し、道具を使って聞く。(2月)
・音を聞いて感じたことや考えたことを友達と言葉で伝え合う。(1月～2月)

３．探究活動の実践

＜活動の内容＞

＜活動のために準備した素材や道具＞
デジタルカメラ、メモリーカード、楽器（スズ、カスタネット、トライアングル、小太鼓、ウッドブロック、鉄琴、木琴、シンバル、大太鼓)、廃材、ホワイトボード、聴診器
＜環境設定＞
・遊具など普段の遊びに使っている物なども使えるようにした
・遊びの時間にも聴診器を使えるように、見える場に用意した

活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり

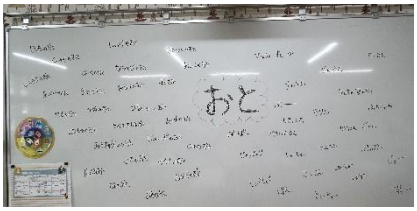
（４歳児）

活動の中で、教師が「目を閉じてみよう。どんな音が聞こえる？」と問いかけると、子供たちは耳を澄ませながら周囲の音に意識を向けた。「時計の音」「風の音」「椅子の音」などの声が上がり、身の回りには様々な音があることに気付く姿が見られた。聴診器について紹介し「この道具を使うと、小さな音も大きく聞こえるよ。いろいろな音を聞いてみよう」と投げかけると、子供たちは興味を示し、さらに音を探してみようとする様子が見られた。子供たちは、ピアノや時計、壁などに聴診器を当て「大きく聞こえる」「カチカチ鳴っているよ」と、普段とは違う音の響きを楽しんでいた。その中で、「先生の音も聞いてみたい」と保育者に聴診器を当てようとする姿が見られた。しかし、「うーん、聞こえないな。友達はどうかな」と、今度は友達同士で心臓の音を聞こうとし、互いに聴き合いながら園内を回る様子があった。自分だけでなく、友達の体にも興味を広げていった。

その後、「外でも音を探してみよう」という声が上がり、園庭へ出た。木の幹や地面、柱などに聴診器を当てたり、友達が柱を軽く叩いて音を出したりしながら、さまざまな音の違いを確かめていた。身近な環境の中にある音に気づき、発見する楽しさを十分に味わう姿が見られた。

その後も音への興味は継続し、12 月には保育者がクリスマス会で使用したハンドベルに関心をもつ姿が見られた。「音当てクイズ」としてどちらの音が高いかを比べる遊びを行うなど、音の違いに注目しながら、楽しみを広げていった。

（５歳児）
７月の発表会に向けて様々な楽器を鳴らすことを喜び、楽器の音を言葉で表現したり、音楽に合わせて鳴らしたりすることを楽しんでいた。鉄琴や木琴に触れた際には「ドレミ知っているよ！」「ピアノと一緒だ！」と音階があることに気が付き、カエルの歌など知っている曲を弾く姿もあった。
９月には学級でライブごっこが流行したことから、廃材を使って楽器作りをする環境を作った。廃材の中から音が鳴るものがないか、どうしたら音がなるかなど教師と一緒に考え、輪ゴムを使ってギターやセロテープの芯でキーボード、段ボールにカラーポリを貼ってドラムなどを制作していた。
１月には、ホワイトボードに『おと』と書き、「どんな音があるかな？」と問いかけをした。『しゅしゅ、りんりん、がたがた』などのたくさんの擬音が上がったり、『電車の音、くしゃみの音、コマの音』など音がする物が上がったりした。好きな遊びの時間にも遊びながら新しい音を発見する姿もあった。園庭では、木をゆすったり、枯れた葉っぱをつぶしたり、駿河台ランドを叩いたり、と色々な音を発見していた。「物を使って色々な音を探してみよう！」と伝えると、砂場のおもちゃを友達とこすり合わせたり、ボールを床について音を鳴らしたりと色々な音が見つかった。「先生こっちに音見つけたよ！」「こうやってきこえるよ！」と音の真似をしていた。
２月には『聞こえない音』があるか子供たちに聞いかけた。あるという子供、ないという子供半々だったので、聴診器を出し「聞こえない音が聞こえるんだよ」と伝え、保育室や廊下、園庭で聴診器を使って聞こえるものがないかを探した。壁、や床、ピアノや空気清浄機などの音を聞き、「これは聞こえないよ」と友達と伝え合ったり、「こぉーって音がしたよ」と音を言葉で表したりていた。園庭では、「滑り台の滑る音を聞きたい」と一人が聴診器を付けて滑り台の下、もう一人が滑り台を滑ると役割分担をしたり、砂場の砂に聴診器を当て、周りで砂を握りしめる音を聞いたりして音を楽しむ姿が見られた。



４．振り返り

・普段、生活している時には気づかない音を静かにすることで発見したり、木を揺する、こする、木や草によって音の違いがあることに気がついたり、細かい部分に注目したりすることができるようになった。
・風の音は『びゅー』ではなく、「こぉーって聞こえた」と自分なりに聞いた音を真似して言葉にすることができるようになり、音を聞いて音の面白さを感じ、さらに興味をもって調べるなど興味を深める姿が見られるようになった。
・今回の活動を通して、子供たちは身の回りにある様々な音に気付いた。聴診器という道具を通して音の違いや響き方に関心をもち“もっと聞いてみたい”という思いが芽生え、音の違いを自ら確かめようとするようになった。普段は意識していなかった音にも注意を向けることができ、その後の活動への興味へとつながった。
教師の問いかけによって気付くきっかけを作り、子供たちの発見を受け止めることで、興味や探究は大きく広がっていくことを感じた。